USiZE クラウドインフラサービス × ProActive E² ERPパッケージ

User's Profile

株式会社JSP 様

発泡プラスチック製造大手がERPをクラウドで運用。会計システムのアクセススピードが約5倍に向上し、管理負担の軽減と事業継続性の強化も実現

株式会社JSP

会　社　名：株式会社JSP
所　在　地：〒100-0005
東京都千代田区丸の内三丁目4番2号 新日石ビル
事業概要：発泡プラスチック、その他合成樹脂製品の製造販売及び輸出、土木・建築工事の設計・請負及び管理
U　R　L：http://www.co-jsp.co.jp/

食品包材、自動車用緩衝材・各種部材、産業用包装材・緩衝材、建築土木用資材、農業水産関係の緩衝材など、発泡体製造技術を基礎とした高機能プラスチック製品の国内トップクラスのサプライヤーとして発展。その実績と技術力を基礎に、北米・南米・ヨーロッパ・アジアの各地域にも展開し、発泡プラスチックのワールドワイドサプライヤーとして、省エネルギー、省資源、環境保全という世界的な需要の拡大に貢献している。

株式会社JSP
経営企画本部
情報システム部
部長
竹松 孝 氏

株式会社JSP
経営企画本部 情報システム部
システム企画・開発グループ
兼セキュリティ管理グループ
グループ長
長屋 穣 氏

課　題

- 制度改正の度に改修が発生し、システムの自社開発メリットが低下
- 会計システムを運用するハードウェア環境の保守期限が、1年後に迫る
- オンプレミス運用によるパッチ適用や業務中断、ハードウェア更新が負担

解　決

- システムのERP化により分散入力を実現し、経理担当者の負担も軽減
- クラウド移行決定からわずか半年後に正式稼働が実現
- クラウド環境でのERP運用により、業務負担が大幅に軽減

制度会計の改正の度に改修が発生しシステムの自社開発メリットが低下

1962年にポリスチレンペーパー事業で創業した株式会社JSP（以下、JSP）は、世界で初めて無架橋法による高発泡ポリエチレンシートやビーズ発泡法ポリプロピレンなどの独自技術を事業化することで業容を拡大。その軽量性・緩衝性・遮音性などに優れた発泡技術を応用して、自動車用緩衝材、産業用包装材、建築土木用資材などを生産し、発泡プラスチック専業のワールドワイドサプライヤーとして発展している。

JSPの基幹システムも、幾度かの変遷を経て同社の持続的成長を支えてきた。1991年にメインフレーム上で会計システムを完全自社開発し、それを基に子会社向けの共通会計システムも次々と作っていった。しかし、2006年以降に新会社法の施行や金融商品取引法への移行など、国内の制度会計が大きく変わるようになると、改正の度に会計システムの大幅な改修が生じるとともに、JSPと子会社の事業規模が異なるためプログラムの乖離が拡大し、共通会計システムとしてのメリットが低下していたことも大きな課題となっていた。

そこで同社は会計システムの全面見直しを決断。2006年からERPへの移行を目的としたプロジェクトを開始し、国内外の複数のERPを比較検討した。その結果、JSPの業務実態に最も適していたSCSKの「ProActive E²」が評価され、2009年に自社環境にオンプレミスで導入。稼働が開始された。

オンプレミスで自社運用を続けるかデータセンターへの移管かを判断

「ProActive E²は当社要件であった本支店会計

SCSK

USiZE クラウドインフラサービス × ProActive E² ERPパッケージ

株式会社JSP 様

への対応に加え、多様な支払業務へ柔軟に対応できるなど、業務要件に対する適合率が高く、最小限のカスタマイズで旧会計システムと同等以上の機能が実現できると判断しました」とJSP経営企画本部 情報システム部 部長 竹松 孝氏は当時を振り返り、選定理由を語った。

従来は、経費精算などを各部署が紙の入力票を起票して経理部門に依頼しなければならなかったが、ProActive E²の導入後は経費システムから各部署が入力できるようになり、経理部門は起票内容の確認をおこなうだけで良くなるなど経理担当者の負担が大幅に軽減されたという。

また、JSP 経営企画本部 情報システム部 システム企画・開発グループ 兼セキュリティ管理グループ グループ長 長屋 穣氏は、「以前はシステム上で問題が発生すれば全て情報システム部が対処しなければなりませんでしたが、ProActive E²導入後はSCSKのサポートに相談できるようになり、精神的にかなり楽になったと思います」と感想を述べる。

その後、ProActive E²の運用は順調に行われていたが、年に1度のビルメンテナンスに伴う全館停電時には全サーバの停止と復帰の作業が発生し、毎回マニュアルを紐解きながら実施するのが管理者の負担となっていた。

さらに、ProActive E²を運用するハードウェア環境の保守期限が2014年夏までと迫り、従来通りオンプレミスで自社内運用を続けるか、外部のデータセンターに移行するかを検討することになったという。「SCSKの提案で新規にハードウェアを交換するコストとクラウドに移行するコストを比較したところ、想定以上の費用増にはならなかったためクラウド移行を決断しました」と打ち明ける竹松氏。SCSKの堅牢なデータセンターにProActive E²を預け、SCSKのワンストップサポートと運用ノウハウを信頼して任せた方が安心だと考えたという。

クラウド基盤には「USiZE シェアードモデル」(以下、USiZE)を選択。プライベートクラウドのサービス品質とマルチテナントでのコストパフォーマンスをバランスよく兼ね備えた、基幹システムを運用する上で最も適したメニューが決め手となった。

2014年の3月～6月にUSiZE側のハードウェア構成の検討や閉域網の手配などを進めながら、ProActive E²の移行作業に着手。その後、稼働確認と並行して帳票出力やミドルウェア群の更新作業とテストを重ね、クラウド移行決定からわずか半年後の8月中旬に、正式稼働が開始された。

USiZEにProActive E²を移行しアクセススピードが格段に向上

長屋氏は、ProActive E²がオンプレミスからUSiZEに移行した後も、従来通りの方法で運用できるので違和感や戸惑いは全くなかったという。「ハードウェアの保守・管理にまつわる煩雑な作業から解放された上に、テープ保管によるバックアップ作業も不要になり、管理者の業務負担が大きく軽減しました」

また、USiZEに移行したことでProActive E²の処理性能が格段に向上したという。「毎月第2と第5営業日は会計の締め日のため、販売管理システムからの仕訳伝票データ連携など、データ取込処理が集中し、取込に時間を要していました。USiZE移行後は、旧来のハードウェアよりもスペックが向上したためか、同様の処理を実施した場合、以前と比べて約5倍アップしています。また、帳票印刷などのバッチ処理時間も大幅に短縮しています」(長屋氏)

ハードウェアが撤去されたことでサーバルームのスペースに余裕ができ、空間を有効活用できるようになったほか、空調を含めた電力消費も大幅に削減しているという。定期的なパッチ適用などのシステムメンテナンス業務、数年後には再びハードウェアの更新も検討しなければならないという心労からも解放され、日々の運用業務に精神的な余裕が生まれたと長屋氏は評価する。

竹松氏も、「企業活動の基幹である会計システムがクラウドで運用されるようになったことで、万一の災害発生時も可能な限り復旧時間を早め、事業継続性がより強化されるようになり、利害関係者との信頼関係維持や企業評価の低下防止も期待できます」と話す。

今後について、竹松氏は、ProActive E²の業務カバー範囲を販売管理まで拡大することも視野に入れている。「当初のシステム導入検討の際、対象外とした購買、販売、物流の各システムはまだホストに残っているので、新たにProActive E²の基盤上で統一できれば全体最適が進み、業務効率もより高まるのではないかと期待しています」

そして今回のプロジェクトを通じ、長屋氏はSCSKの技術力とサポート力を高く評価する。「ワンストップサポートの質や安心感は他社よりも群を抜いており、USiZE運用になってからもそれは変りません。営業も電話サポート担当も顔が見える対応で親身な上に迅速なため、ERPもクラウドも長く使っていけると確信できる根拠になっています」

こうした期待に応えるため、SCSKは今後もJSPのビジネス発展に全社を挙げて支援していく考えだ。

SCSK SCSK株式会社

ITマネジメント事業部門
〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
e-mail: usize-info@ml.scsk.jp
Web：https://www.scsk.jp/

SCSKカスタマーセンター（SCSKの製品・サービスに関するお問い合わせ受付窓口）
フリーコール 0800-500-4000（無料） 受付時間／月～金 9:00～18:00（祝日、年末年始、当社指定日を除く）
● 携帯電話でのお問い合わせ TEL：03-6670-2990

※ 記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
※ 記載製品の仕様は予告なしに変更される場合があります。
※ 記載の内容は2015年1月現在のものです。